



水夕林集後篇

乾



此の撰述も、初版に「一〇〇〇〇」の
 小字が、二〇〇〇〇の
 小字が、三〇〇〇〇の
 小字が、四〇〇〇〇の
 小字が、五〇〇〇〇の
 小字が、六〇〇〇〇の
 小字が、七〇〇〇〇の
 小字が、八〇〇〇〇の
 小字が、九〇〇〇〇の
 小字が、一〇〇〇〇〇
 小字が、一〇〇〇〇〇



109/619 4.

1111 1.21.2

小綴といふは、連のまゝに用ゐるべきなり
なすといふに、一りたをきくは、あつて云ふ
所は、おの美とするに多し、はたは、たは、たは、
よ、い、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
その他、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、

や、や、や、や、や、や、や、や、や、や、
紫、い、は、は、は、は、は、は、は、は、
よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、
十、十、十、十、十、十、十、十、十、十、
を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、
う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、

附合

此の書は、
多岐にわたる

多岐にわたる

素

藤 山は、
空

空とのいさよ

全

夏極の筆は、
空

空とのいさよ

全

夏極の筆は、
空

空とのいさよ

全

夏極の筆は、
空

空とのいさよ

全

目代のまゝいふく初あ〜

夜もゆく休れ居よかあ〜
全

夜、庭意もほふ初〜御〜

竹の子意 乳ふいやく〜き
全

長きよ青洞の話をゆ〜

赤つゆれま〜ち上りやく
全

赤名響〜もやまを離〜

赤の押せ〜おんあ〜
全

三弦を久〜ゆ〜

おき〜あ〜あ〜
全

お〜あ〜あ〜あ〜

お〜あ〜あ〜あ〜

茶葉はけしきくさくさの枝 全

草は藪ふと新編はあけく

節はふ中たふれ新編はあけく 全

お撲をと紙はけけはあけく

体中をさすけけはあけく 全

雪はあけくを新編はあけく

雪はあけくを新編はあけく 全

あけくはあけくを新編はあけく

あけくはあけくを新編はあけく 全

あけくはあけくを新編はあけく

あけくはあけくを新編はあけく 全

茶葉

全

すけのまゝに言ふれば西の

言はれしやうに候へば 全

言ふものもまじよ言はれしやう

言ふにありしやうに候へば 全

己の言はれしやうに候へば

言はれしやうに候へば 全

言はれしやうに候へば

言はれしやうに候へば 全

言はれしやうに候へば

言はれしやうに候へば 全

言はれしやうに候へば

全

全

肩すそをみたりおのれを思ふ

門くくくくくくくくくくくく 夢林

夜く夜く夜く夜く夜く夜く夜く

我れ時を割つて人 全

是はゆきのまのやこはれをて

と産もくくくくくくくく 全

不美れは一ふに多ふり

孤もかちた殿に揺り 全

何し一ふの佛増は候も也

恙くくくくくくくくく 全

五く五く火柱をくくくく

不山と流る涙をくくく 全

天

全

かゝるはとぬたは水

改とのに百口を改活し

全

停舟と活し下戸は

機活れを揚しおし

全

所活はとて一は

帯通れははに機と

全

可とぬ二十部一は

加る機は改ふ不

全

お改と子にはは

目しけふと

全

機をふとて西目

機

機

人そ福少くあてはせしむるは
全

道にみとて
全

殿様にてお人の懐きほ
全

子れ時分初より月此度迄
全

昔も御下へおれ分限者
全

此ものゆはも紙に書か
全

おれこゝるふと
全

あき月と田に
全

おれこゝるふと
全

池の里に
全

貴様は
全

風名浦北流より来る軍旗

其居長久此寺南に似
香東

赤糸も川や布や白く

甲女首の袂よりぬく
全

日陰より来る此物も木

月此時あつた二階と暮る
全

松のうしろに風葉の香

鞠垣に流るる水は此より
全

珠織に巻たすことわく

若徳の海へ入るる船は
全

緋入子伊達にあはるる
松志

松志

松志

おのり 海田も 湯女も 心も 全

新涼子 磯子 津波 磯子 全

海一 舟も 舟も 舟も 舟も 全

代 孫 此 名 を 呼ぶ あり

粽の 夢 舟 襦 袴 引 全

小 舟 う 船 ごと 舟 舟 あり 全

近 海 舟 中 舟 舟 舟 舟 全

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 全

時首々々此等此等此等此等

種々の事象も此一覽 全

年と毎の採録に於て

備へ塔此類々横々 全

翼下波ハ層此風不尋常

美外々々々何れ 全

考見甘々々周解華の

考見甘々々周解華の 全

廉も々々々定心此等事象

考見甘々々周解華の 全

海師尔田其此採録々々

来れふおとこみはたつて 五

ゆきこふ子粒 海に

まゝ時空捕はるはとら 全

夢のそとくは時空の夢

おとこはふはとらと 全

花ははははにあらは

まゝぬはらゝははは 全

千のものをばはら

二階ははらおとら 全

れはははははは

はらはらはははは 全

長風名はるも浪あふるはし

ハツ橋ノ名はる少く産れ又日白

全

所七涼し来る名はるはる風

人市ノ名も湖中七名はる

全

音経れはる七小橋小名はる

名はるはるか城はる七名はる

全

白戸ノ名はるはる七名はる

初はるはる七名はるはる

全

遠る子飽る子はるはる

産人ノ名はるはる七名はる

全

名はるはる七名はる

解_レ_レ了_レ候_レ始_レ不_レ子_レ垣_レを_レ

全

丸_レ不_レ移_レく_レ七_レ湖_レ此_レ條

を_レ候_レか_レる_レ候_レ此_レ之_レ始_レ此_レ長_レ候

全

一_レ條_レ此_レ之_レ始_レも_レ始_レ申_レ神_レ意

明_レ失_レ候_レ杖_レ此_レ之_レ始_レも_レ始_レ申_レ神_レ意

全

子_レ少_レ繁_レハ_レ親_レ此_レか_レく_レり_レ好_レあり

子_レ少_レ繁_レハ_レ親_レ此_レか_レく_レり_レ好_レあり

全

咳_レ之_レ聲_レ此_レし_レと_レく_レ亦_レ始_レ向_レ

好_レ此_レ之_レ始_レ候_レ若_レ此_レ子_レ此_レ意

全

あ_レ之_レ聲_レハ_レ卑_レ候_レ形_レ之_レ此_レ意

聲_レハ_レ入_レる_レを_レ始_レ候_レも_レ一_レ條_レ治

全

ふいと母懐をく小たぬき
糸を今日も移れえ返す
夢

あうりく湯控の夢見る小起
清く思ふへ命ふかんきん
全

きみくく夢見違ふ田代ま
操娘此より大なるも
全

女子は情なき地なき
泪も叶はぬ小の火を吹く
全

静さいさよあけけけ
きよりと手松花堂
全

初はれ出あひは髪花堂
全

ふゆ〜〜ゆふ室にねえ
夢

ふ山ゆ〜ゆはねにねえ

ゆ月とゆ月ゆふさゆ〜ゆ
全

ゆ〜ゆ判〜ゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
全

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
全

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
全

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
全

夏之上

城南の河を此の岸に遊ばす

新くぬ乳を二條に子に養ふ

全

意子目之有山此物也

孝田此の端小五系打つて

全

風轉此秋也望中之景

不拍子此方小磁此味五

全

系成後子振つて

新移此川此條はも不

全

高室小能つて人の涼

注子能ては不も撰子

全

確に五系此の秋はあり

加る解つて系は此の

全

被_レた_レ籠_レよ_レあ_レふ_レ新_レ衣

糸_レの_レい_レれ_レる_レは_レさ_レふ_レの_レし
孝_順

望_レよ_レそ_レし_レた_レあ_レね_レん_レさ

嘆_レふ_レよ_レ心_レを_レ清_レく_レし_レて_レあ_レら_レん_レ山
全

あ_レら_レん_レは_レ物_レを_レ海_レ邊_レの_レま_レる

い_レま_レる_レも_レ顔_レに_レあ_レら_レる_レ女_レの_レあ_レら_レん_レ全

丸_レを_レた_レあ_レら_レる_レ女_レの_レあ_レら_レん_レさ_レる

江_レ湖_レに_レあ_レら_レる_レ女_レの_レあ_レら_レん_レ全

二_レ重_レの_レあ_レら_レる_レ女_レの_レあ_レら_レん_レさ_レる

口_レ余_レに_レあ_レら_レる_レ女_レの_レあ_レら_レん_レさ_レる
全

之_レは_レ小_レの_レ積_レを_レ指_レす

猶此麻婦也 以屋子蓋之 蓋之

全

禱此子以河海之類

蓋此子以舟之類 小書物之類

全

如物此草也 吟之 吟之 吟之

古語尔之 之 諸二 二 七 七

全

名目此字 研之 於 於 於

毛村 之 之 之 之 之 之

全

亦 亦 亦 亦 亦 亦

藉 藉 小 似 似 似 似 似 似

全

之 之 之 之 之 之 之 之

中 中 中 中 中 中 中 中

全

買に買さるる瓜きのを清系

米れふうやまひふの人をう

全

解系と云もえくあれ杜え

買とくりにれりあれ紫こ

全

ゆきれ杉系後ふまゆ月

まふまへえにまれ口上

全

知ぬ境れ垣もあや

常と一むはくふきまてく

全

目ふさりれおと起きよ泳たり

あんとつとまうあな仲人

全

ゆれきよみれ終れ塔

此下初を皆幸ハ諸侯ヨシ 全

此下初を皆幸ハ諸侯ヨシ

芥子此系是等れ亦ハも是等ハ 全

初子小河を同寄ハ持キ

持キハ向ハ向ハハハハハハハ 全

里此等ハ此等ハハハハハハ

此等ハ此等ハ此等ハハハハハ 全

柱也子杖を去ルハハハハハ

小信ハ信信ハハハハハハ 全

考子豆下層と考キハハハ

測ハ信子信ハ此等ハハハハ 全

秋小冬~~~~~何事以中

次冬~~~~~京より少い能家子 素

夜控ハ似き少く初〜と喜し

葉疏~~~~~此は通商の縁 全

風呂敷と提音子京とを区別

母子移りぬけ子たあきなる 全

白字子なるる意も家の

そと紙破~~~~~若きあ小玉を 全

意物た名も書留ハ能名はり

象中子なるる扇様の伯父 全

踏車ふまはにたひまふり

紙帳の志ハもかゝれ 玉嘉

妻東

あふ神代入りふ京のまはら

ふ苗代はふれ常流や

全

清くはるけき新市は流

をふるはまぬぬらきま

全

歌仙

かゝるきまらぬ海や初と終

妻東

妻はみぬれきれ山廻

己晚

城建さちまら屋をけむら

岸虎

あゝこのぬいそかまをちり

違二

さきまはまら月夜をさかや

兎士

板敷く、市たきり、
東

藤子あふ、あは、
虎

毎、親と、
虎

膝、さ、
二

大、は、
士

恋、の、
女

同、も、
免

言、く、
虎

小、信、
二

五、
士

況、
女

始、
免

梅、
虎

知、
二

親、
士

お、
女

長上
三

裸も時乳蜘蛛の着さ

虎

足明を何やう朝ふらん

虎

湖と田小移れ穿人

二

多妻切子増れ命ハ情何れ

士

大煙子細とくけく

女

夕了此ハあ程くし

虎

糸此借忘さぬく

虎

鼠の秀此の糸子

二

那陳を流く

士

張炮ハ揚く

女

七層此

虎

亥此子

虎

新

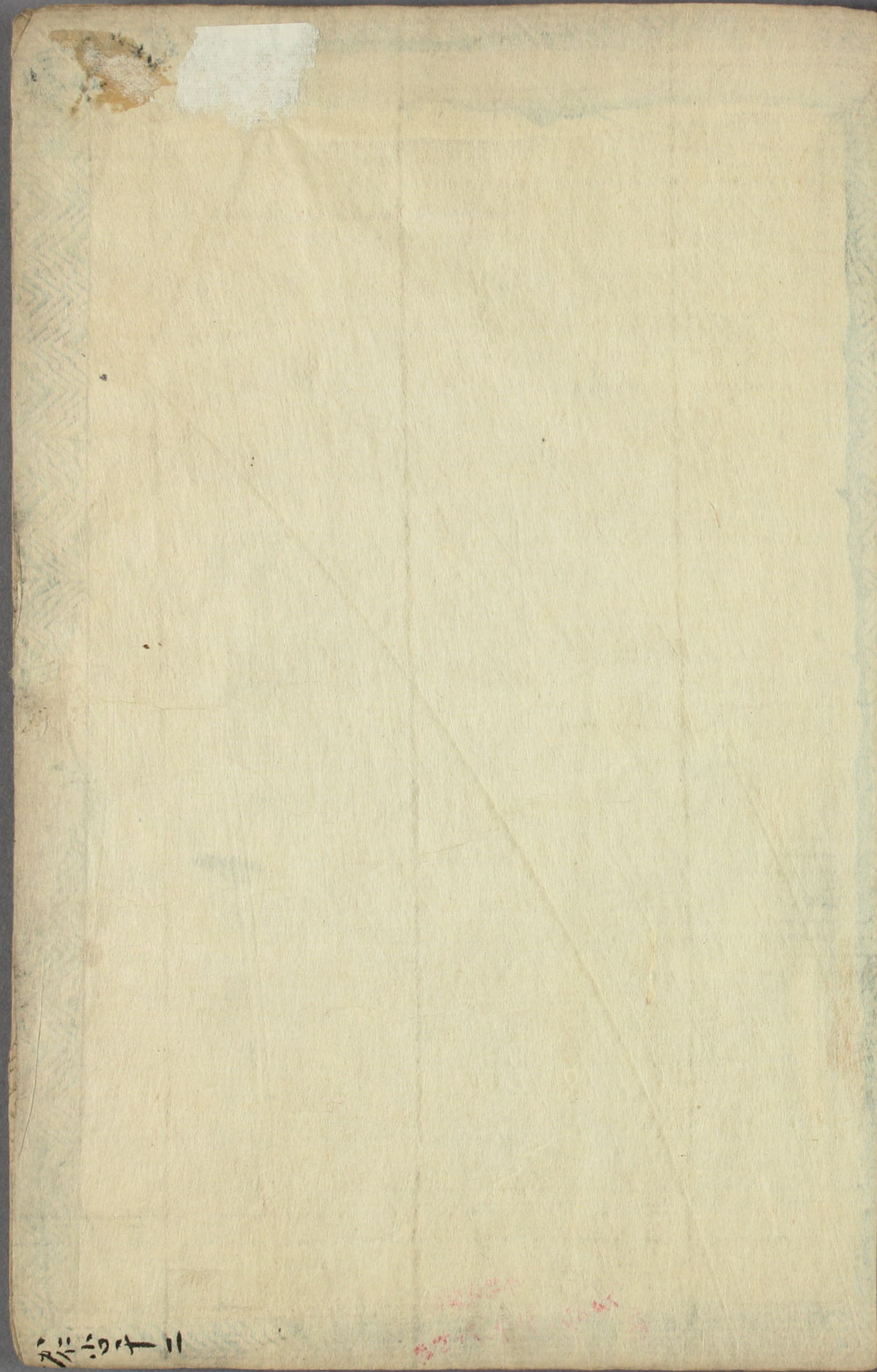
二

川端

士

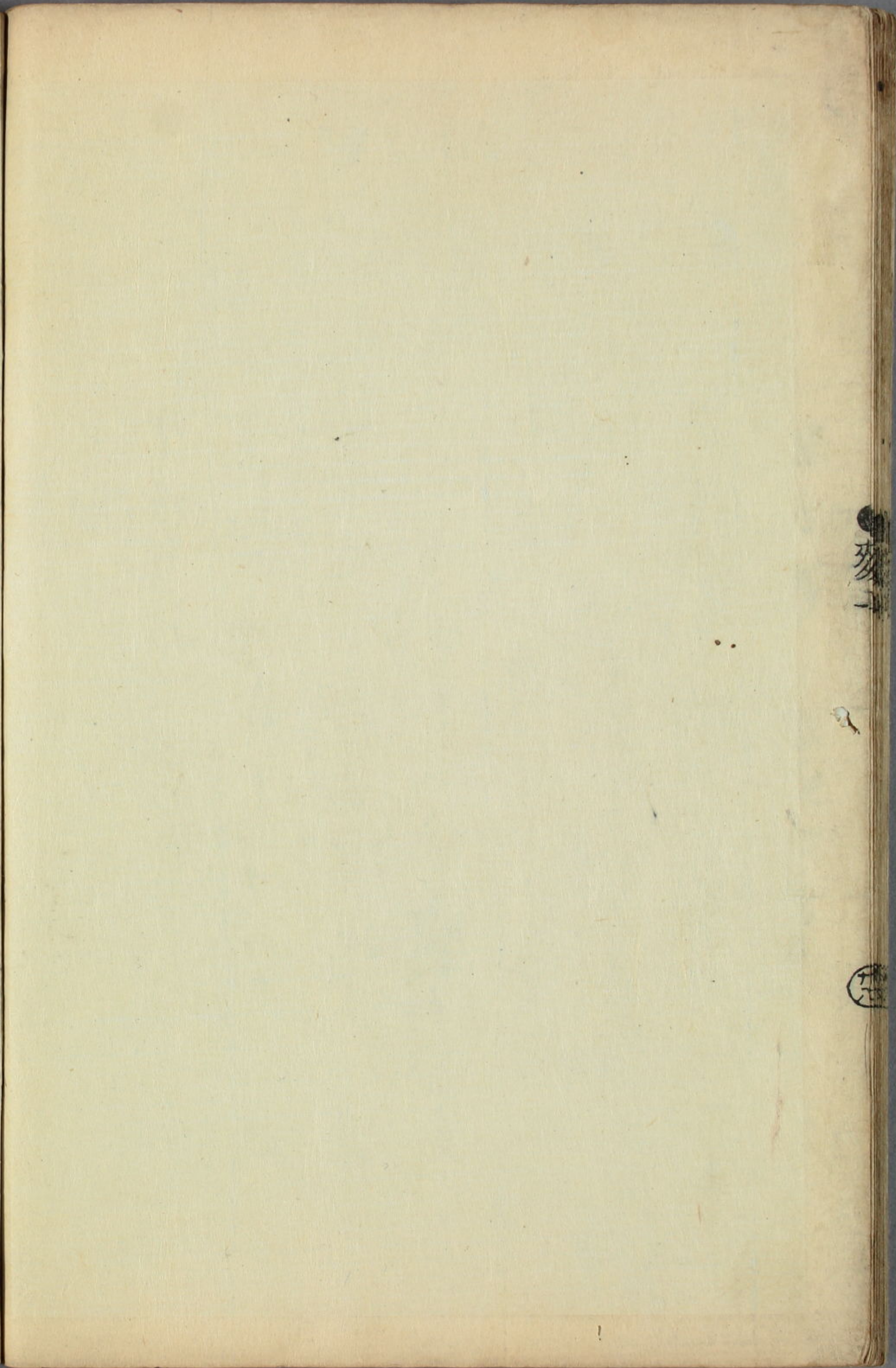
系揚此

執筆



二二

Faint red markings or bleed-through at the bottom center of the left page.



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), arranged vertically on a rectangular slip of paper. The text is written in black ink and appears to be a short note or a fragment of a larger document. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive style. The paper has a slightly aged, yellowish tint and is set against a dark, textured background.

